

上級国民・下級国民と医師・医療

奇妙なタイトルだが、今、上級国民・下級国民がSNS上で炎上中である。

退職してもっともありがたいことは「自分の時間を自分で配分できる」こと。とはいえ今も国立大学研究部門の常勤特任教授職なので「部門設置目的に沿った研究と関連する臨床（外来）」は必須ではあるが、何より学生教育や講座・大学運営管理業務から解放されストレスは激減した。欧州ヘリコバクター学会への出席と夏休みを兼ねた1週間の海外旅行の帰路の空港ラウンジで本文を書き終えた。通常の海外学会の機内では新作映画三昧で年間15本位は見るので話題の新作映画はすべて機内で見える。2018年ウイーン開催のUEGW (United European Gastroenterology Week) の際だったと思うが、カンヌパルム・ドール最優秀賞に選ばれた『万引き家族』の作中で、女刑事の取り調べに、潤んだ目と顔の表情、涙のみで、すべてを観客に理解させてしまう女優安藤サクラ（父の奥田瑛二は富山映画塾の塾長）の演技は感動ものだった。『エリザベス』で英国アカデミー賞主演女優賞を受賞した演劇派女優ケイト・ブランシェットが彼女のこのシーンに同業者として心から感動したとコメントしたのも頷ける。しかし今回の欧州便は見るべき新作がないことがわかっていたので、読みたいと思っていた数冊の本を買い込み、その一冊がベストセラーになった『言ってはいけない—残酷すぎる真実—』（新潮社）（これも面白かった）の著者でも

ある橘玲氏の『上級国民/下級国民』（小学館新書）であり、行きの機内で一気に読み終えた。

そもそも、「上級国民」が話題になったきっかけは、今年4月、東京で87歳の高齢ドライバーが暴走、31歳の母親と3歳の女兒がはねられて死亡した事故であった。事故を起こしたのは元高級官僚、退職後、天下って数々の関連業界を渡り歩き、叙勲も受けた高齢者であり、すぐに逮捕もされず、メディアも“さん”付けで報道した。対照的に、その2日後、神戸市営バス運転手が事故を起こし、2名が死亡、こちらは現行犯逮捕となり、前者は上級国民なので“さん”付け、後者は下級国民なので即逮捕となったのではと、ネット上で炎上したのだ（本当の理由は別にある）。

さて一般的には医師は上級国民と考えているとは思いますが、団塊世代（70～75歳）前後の医師であれば理解できるが、もっと若い医師が、これからも医師が上級国民と考えているとすれば大きな誤りである。前述の著書では直接的には論じていないが、内容を正しく理解すると、近い将来の若い医師はすべてが上級国民とはならないことが十分に推論できる。「そんな馬鹿な」と思うだろうが、その認識の違いは「上級と下級」の真の意味、「上級と下級」に分断された原因の理解の差違である。

1989～2018年の30年間で日本の1人当たりの名目GDPは最高2位から、現在は26位であり、韓国とほぼ同位置、

シンガポールは8位である。橘氏によれば、「日本はどんどん貧乏くさくなっている」。日本の現首相はインバウンドが急激に増加したことを成果のように自慢（自己自慢ばかりで知識の底の浅さを露呈）しているが、最大要因は「日本が手軽に旅行できる安っぽい国」となったからであって成果ではない。さらに現在の日本の一人当たりの労働生産性はOECD加盟国中21位、もちろんG7サミットの中でも1970年以降、継続的に最下位である。統計は明らかに日本が貧乏くさくなっていることを示している。1989～2018年の間に何が起こったか？名目GDPの大きな低下は世界をリードするIT巨大企業〔米国GAFA (Google, Amazon, Facebook, Apple) など〕の不在と、IT導入がほとんど経済成長に寄与していない（社員や医師の反対が強いため、高コストのオーダーメイドシステムを導入）ことが低下の大きな要因とされる。一人当たりの労働生産性の低下はさらに著しく、主因は大きな経済的中間層を形成していた自営業がつぶれて失職、家族も含めて非正規雇用者（コンビニを見るとわかる）となり、下級化しており、加えて非正規雇用者の大幅な増加による中間層の激減が寄与している。その結果として、著しい格差社会、分断社会となってしまった。

しかし上級国民と下級国民の格差分離は収入だけで決まるものではない。加えて年齢、学歴、性差、専門性が重